

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 4日現在

機関番号：13302

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21500247

研究課題名（和文） 由緒帳データベースによる藩制組織構造の解明に関する提案

研究課題名（英文） A Analysis of Kaga Domain Structure with Yuisyo-cho Database

研究代表者

堀井 洋 (HORII Hiroshi)

北陸先端科学技術大学院大学・知識科学研究科・研究員

研究者番号：40372495

研究成果の概要（和文）：

本研究では、近世加賀藩家臣団の網羅的な記録である「先祖由緒并一類附帳」（金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵、以下「由緒帳」）を対象として、藩制組織の統計的かつ客観的な全容解明を目的とする。これまでに、以下の2点についてデータベース化と公開にむけた実装を行った。第一に、「由緒帳」作成者に着目した構成家臣の分析であり、その主たる目的は、加賀藩士については、身分・階層を明らかにすることである。第二には、「由緒帳」中の上級家臣（人持組）部分について、画像データの撮影と記述内容の解読を実施した。

研究成果の概要（英文）：

In this study, we proposed analysis of Kaga domain with Yuisyo-cho database based on Senzo-Yuisyo-Ichiruizuke-Cho. Kaga domain was one of the largest domain in Edo-period, by analyzing the Yuisyo-cho database, the composition of whole human, political, marriage structure of domain becomes clear objective.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 2009年度 | 1,700,000 | 510,000 | 2,210,000 |
| 2010年度 | 1,200,000 | 360,000 | 1,560,000 |
| 2011年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| | | | |
| 総計 | 3,400,000 | 1,020,000 | 4,420,000 |

研究分野：情報システム

科研費の分科・細目：情報学・図書館情報学・人文社会情報学

キーワード：歴史情報 人文データベース 情報システム 遍プロジェクト

1. 研究開始当初の背景

日本国内での藩制組織の構造・役割に関する研究は、『近世武家社会の政治構造』（笠谷和比古，吉川弘文館，1993）・『幕藩制的秩序と御家騒動』（福田千鶴，校倉書房，1999）・『幕藩領主の権力構造』（藤井譲治，吉川弘文館，2002）などが行われている。しかし、これらの従来の藩制組織に関する研究では、階

級・石高・時代など幕藩に属する藩士の網羅的なデータ集合に基づいた、藩制組織を藩士の集合組織とする観点からの統計的かつ客観的な全容解明は行われて来なかった。その主要因として、藩制組織の人的構成を網羅し、婚姻・血縁関係などの人的関係や石高や役職などの組織構造を集約・蓄積した歴史学研究データベースが極めて少ないことが挙げら

れる。平成 19 年度学術情報データベース実態調査報告書(国立情報学研究所)によれば、歴史学分野において構築・運用されているデータベースの大部分が文献目録・文献索引などの史料検索データベースである。これらの史料検索データベースでは、入力した検索条件に合致した史料名およびその画像・テキストデータが提示されるが、「元治元年から慶応元年に生存した藩士で、尚かつ石高 100 石以上で、尚かつ互いが血縁関係にあった人物のリスト」といった、組織を構成する人物個々・相互の意味情報および意味検索を行うことは想定されていない。

2. 研究の目的

本研究では、近世加賀藩家臣団の網羅的な記録である「先祖由緒并一類附帳」(金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵、以下「由緒帳」)をセマンティック Web 技術により由緒帳データベースとして歴史学研究データベース化し、それを利用した情報技術による藩制組織の統計的かつ客観的な全容解明を目的とする。加賀藩は藩士の数が他藩と比較しても圧倒的に多く、石高 1000 石を超える上級家臣は 80 家を超え、このような大身の上級家臣が多数存在する藩は全国的にみても稀である。「由緒帳」は約 260 年に渡り加賀藩を構成した藩士の 2/3 に相当する約 1 万人の氏名・石高・職歴・出身などに関する網羅的な現存する記録であり、「由緒帳」を歴史学研究データベース化する意義は歴史的にみても極めて高い。さらに本データベースを活用することで、藩士個々の連鎖からなる藩制組織構造を客観的・統計的に読み取ることが可能となり、従来にはない歴史学的研究を行うことが期待される。

3. 研究の方法

本研究では、情報科学分野と歴史学分野双方の研究者が研究グループを構築し、それぞれの専門的知識・技術を活かして協力し研究

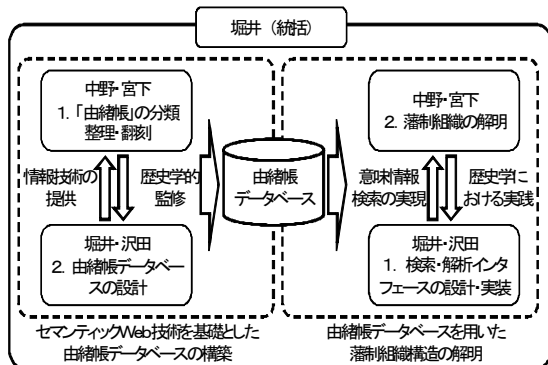


図1: 研究体制概要

を遂行した。研究グループの概要を図 1 に示す。情報技術を専門分野とする堀井・沢田を中心にメタデータおよびセマンティック Web 技術に基づいた由緒帳データベースの設計および構築に取り組み、歴史学(日本近世史)課題を専門とする中野・宮下が「由緒帳」の解読および歴史情報の意味的記述・藩制組織構造に関する具体的課題の解明を行った。さらに、「由緒帳」の解読作業には、元金沢市史専門員長山直治氏、金沢大学資料館堀井雅弘氏が参加した。具体的な研究遂行は以下の通りである。

(1) セマンティック Web 技術を基礎とした由緒帳データベースの構築

「由緒帳」(金沢市立近世史料館蔵)の点数は 1 万 3 千点余りであり、明治初年時点での加賀藩士卒族数の約 3 分の 2 に相当するが、これまで体系的な整理・翻刻は行われていない。本研究では、年代および家職単位で「由緒帳」の整理分類を行い、その結果に従って内容の翻刻を進めた。翻刻作業に際しては、「由緒帳」の点数が 1 万点を超えることから、翻刻作業途中のデータベース化・解析への着手を考慮し、年代および石高の分布に従って実施した。翻刻作業では「由緒帳」の記載事項の中から、氏名・生没年齢・石高・職歴・婚姻・出生を予め定義したスタイルシートに沿って表形式で電子データ化し、さらにそれぞれの項目に付随する歴史的記載事項を記入した。

(2) 由緒帳データベースを用いた藩制組織構造の解明

研究者に対する公開を目的とした由緒帳データベースを構築した。由緒帳データベースは、CMS 上にモジュールとして、遠隔地からの利用も考慮した。さらに、2 種類のデータベースの可視化により、加賀藩士の身分・階層の移動関係と八家および人持組の血縁・姻戚関係を明らかにした。

4. 研究成果

構築した由緒帳データベースの外観を図 2 に、項目概要を表 1 示す。由緒帳データベースの構築に際しては、以下の 3 点について配慮した。



図2：由緒帳データベース外観

(1) 主な利用者が学術研究者あるいは非学術研究者（一般市民）を明らかにする必要がある。学術研究者向けには、利用者自ら検索結果情報の正確性・妥当性を検証できるように、出典や根拠を参照できる環境の実現が求められる。また、一般市民向けには、抽象的なキーワードによる検索や、現代語による解説などを整備する必要がある。

(2) 提供する情報の正確性・妥当性の確保

先祖由緒并一類附帳データベースでは、先祖由緒并一類附帳の記述内容に基づき情報を構造化・データベース化しているが、先祖由緒并一類附帳記載内容の正確性・妥当性については、検証を行っていない。しかしながら、作成された幕末期・明治期当時の成立状況や記述文字の判読など未だ不明な要素も存在しており、データベースとして公開する際にはこれら不確定な部分についての扱いが問題となる。特に、グラフなどの可視化情報や一般向けの解説など、提示される情報の抽象度が上がることに伴い、利用者自らがその情報の妥当性を検証することが困難になるため、検証手段の確保が重要である。

(3) 人権・個人情報に対する配慮

先祖由緒并一類附帳という史料の性質上、一般公開に際しては人権や個人情報への十分な配慮が求められる。具体的な対策としては、学術研究者向けの場合

には登録制にして、利用目的を学術研究目的に制限する方法や、学術機関からのアクセスのみ利用を規制する方法が考えられる。また、利用者の立場や知識背景のレベルに応じて、提供する機能を動的に対応させることも考慮すべきである。

表1：由緒帳データベース項目概要

| 属性名 | 説明 |
|-------|---|
| 帙番号 | 由緒帳が保管された帙に割り当てられた番号 |
| 当主の氏名 | 由緒帳成立時の当主の氏名 |
| 別名・通称 | 当主の別名・通称 |
| 父の名前 | 当主の父の名前 |
| 秩禄 | 当主に与えられた俸禄値 |
| 成立年代 | 由緒帳成立時の年代(Mは明治の略) |
| 檀那寺 | 当家の菩提寺 |
| 丁数 | 由緒帳の丁数 |
| 冊数 | 複数冊からなる場合の数 |
| 本人 | 直臣の場合は身分・階層移動の記録。陪臣の場合は家臣名 |
| 父・祖父 | 当主の父（不明な場合は祖父）が直臣の場合は身分・階層移動の記録。陪臣の場合は家臣名 |

身分・階層移動の可視化結果を図3に示す。本稿の手法で作成した身分・階層ネットワークはノード数46、リンク数50のネットワークである。ちなみに、由緒帳DBから作成した隣接行列の大きさは2438×2438、そこから作成したネットワークはノード数2,438、リンク数2,864であった。

可視化結果から次のことがわかった。平士身分では、「馬廻組」から「大小将組」に移動した事例が337件あった。これは全ての身分・階層の移動回数の中で最大のもので、一般的な身分・階層の移動であったことが推測される。その他、「組外」からは、「馬廻組」に移動した事例が295件、「大小将組」に移動した事例が119件、「定番馬廻組」に移動した事例が92例あった。御歩身分では、「定番御歩」から「六組御歩」に移動した事例が35件あった。足軽身分では、「先筒足軽」から「割場付足軽」に移動した事例が156例、「持筒大組足軽」から「割場付足軽」に移動した事例が83例、「持筒足軽」から「割場付足軽」に移動した事例が82例、「先手足軽」から「軍艦付足軽」に移動した事例が23例あった。

昇進とみられる身分階層の移動事例としては、「割場付小者」から「割場付新足軽並」

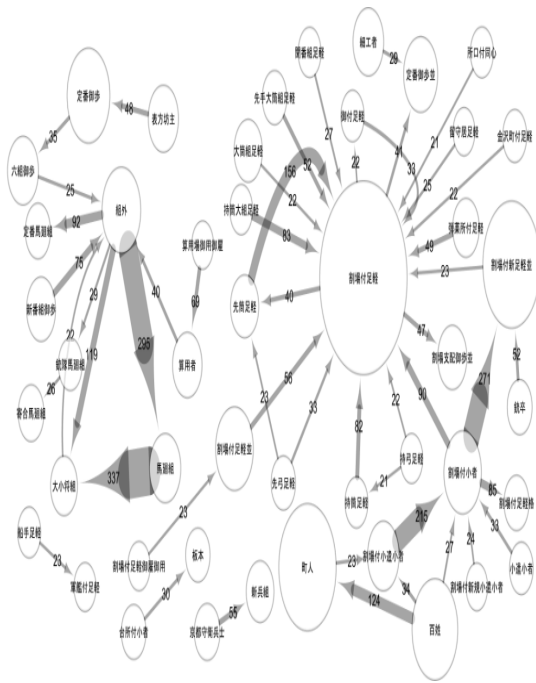


図3：身分・階層移動の可視化結果

に身分移動した事例が271例、「新番組御歩」から「組外」に身分移動した事例75件あった。「割場付小者」から「割場付足軽」に身分移動した事例は90件あった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 7件)

1. 堀井 洋, 林 正治, 堀井美里, 高田良宏, 古畑 徹, 大学所蔵非文献資料を対象にしたリポジトリの構築, じんもんこん 2011, 2011. 12. 10, 龍谷大学大宮キャンパス (京都府)

2. 林 正治, 堀井 洋, 堀井美里, 宮下和幸, 中野節子, 沢田史子, 付箋モデルを利用した先祖由緒并一類附帳データベースの統合環境, じんもんこん 2011, 2011. 12. 10, 龍谷大学大宮キャンパス (京都府)

3. 沢田史子, 堀井洋, 堀井美里, 林正治, 吉田武稔, 情報システムを利用した歴史資料の観光開発—情報の粘着性による視点から—, 経営情報学会 2011 年秋季全国研究発表大会, 2011. 10. 29-30, 愛媛大学 (愛媛県)

4. Ayako Sawada, Hiroshi Horii, Taketoshi Yoshida, Jeremy Phillips, Kenichiro

Fukushima, Yukimune Takagi, Using Historical Materials in Tourism Guides for Foreign Visitors, 12th Asia Pacific Industrial Engineering and Management Systems Conference, 2011. 10. 14-16 Friend Ship Hotel (Beijing, China)

5. 沢田史子, 地域歴史資料の観光への活用, 加賀藩研究ネットワーク 2011 年第 1 回研究例会, 2011. 06. 04, 金沢大学サテライトプラザ (石川県)

6. 林 正治, 堀井 洋, 堀井美里, 沢田史子, 吉田武稔, 他, 先祖由緒并一類附帳研究データベース構築のための情報システム, じんもんこん 2010, 2010. 12. 11, 東京工業大学大岡山キャンパス (東京都)

7. 林 正治, 堀井 洋, 堀井美里, 沢田史子, 吉田武稔, 加賀藩研究における史料の特徴に着目した統合データベースの提案, 情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会, 2009-07-18, 帝塚山大学 (奈良県)

[その他]

加賀藩研究ネットワーク

<http://amane-project.jp/karen2/htdocs/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

堀井 洋 (HORII Hiroshi)

北陸先端科学技術大学院大学・知識科学研究科・研究員

研究者番号：40372495

(2) 研究分担者

中野節子 (NAKANO Setsuko)

金沢大学・歴史言語文化学系・教授

研究者番号：60019338

林 正治 (HAYASHI Masaharu)

一橋大学・情報基盤センター・助教

研究者番号：90552084

宮下和幸 (MIYASHITA Kazuyuki)

金沢大学・人間社会環境研究科・客員研究員

研究者番号：40535663

沢田史子 (SAWADA Ayako)

北陸先端科学技術大学院大学・知識科学研究科・研究員

研究者番号：20456429